

(調査報告書)

国名	ガーナ共和国
プロジェクト形成調査地	ガーナ共和国 (アクラ)
プロジェクト名	有機カカオ栽培を通じた農民自立支援、及び北部コミュニティ開発
事業概要	ガーナはアフリカ諸国のなかで政治的・経済的に安定しているが、国内での南北格差や都市と地方の格差は広がる一方である。北部は降水量が少ないサバンナ気候(半乾燥地)に位置し、厳しい生活環境である。また、西部地域には森林地帯が広がり、カカオ豆の生産も行われているが、カカオ豆生産者の基本的社会サービスへのアクセスに確保されていない。ケア・インターナショナル ジャパンはこのような状況を踏まえ、北部コミュニティ開発事業、並びに有機カカオ栽培を通じた農民自立支援事業実施のための調査を行う。
調査者	竹中 宏美
調査期間	2008年2月15日～2月22日

【プロジェクト形成調査の概要】

ガーナはアフリカ諸国のなかで、最も経済状態が良い国であるが、北部地域のサバンナ地域では貧困が依然として顕著である。貧困、保健・教育・水と衛生といったサービス改善や安定した食糧へのニーズは未だ高いが、コミュニティが、持続的に基本的な社会サービスや資源にアクセスし、恩恵を受けることができるように開発をすすめる必要がある。北部地域の開発については、在ガーナ大使館並びに JICA ガーナ事務所とも重点分野であることを確認しており、住民にとっての生活基盤である自然資源の(食糧としての産物並びに現金収入のための自然資源(例:シアの実→シア・バター)) 保全かつ有効利用の双方を取り入れた、住民による自然資源管理/活用ができるよう、コミュニティのキャパシティ・ビルディングが必要であることが確認された。更に、WFP 等が実施している学校を通じた栄養改善事業や、青年海外協力隊との現場レベルでの連携を行うことで、より包括的な事業を展開できることが確認された。

また、北部地域ほどではないが、西部地域の特定層は豊かな資源(主に森林資源)があるにもかかわらず、カカオ豆という第一次輸出品であるために変動する価格の影響を受け、カカオ豆生産者の生活状況は厳しい。より付加価値をつけ、かつ生産者の生活状況を支援するサービス改善が必要である。

【今後の事業形成の展望】

今回の現地調査を通じ、自己資金で行った昨年11月現地調査を踏まえたJICA草の根技術協力(パートナー型)へ申請した事業(コミュニティによる自然資源管理事業)を基に、現場レベルで他機関と連携することで、よりインパクトがでるよう他関連国際機関(WFP)

や現地NGOとの調整が図られた。北部地域の開発は、日本が重点分野としていることから今後も北部地域に関しては、外務省NGO連携無償資金協力等を視野に入れた新たな事業形成の可能性を探ることとする。また、西部地域における有機カカオ豆の生産者を対象とした事業形成に関しては、既に事業を実施しているNGOとの情報共有を促進し、事業形成の可能性を引き続き探ることとする。

【調査日程】

2/15(金)	成田発、経由地着（ミラノ）
2/16(土)	経由地発、現地(アクラ)着
2/17(日)	資料整理、スケジュール確認、プロジェクト企画立案準備
2/18(月)	プロジェクト企画立案にかかる調整、国際機関訪問（聞き取り調査）
2/19(火)	プロジェクト企画立案にかかる調整、現地NGO訪問（聞き取り調査）
2/20(水)	プロジェクト企画立案にかかる調整、在ガーナ日本国大使館訪問、JICAガーナ事務所訪問 現地（アクラ）発
2/21(木)	経由地着、経由地発
2/22(金)	成田着